

医療安全論

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 嶋森 好子 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 12時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

日本の医療において、安全確保が重要な課題となった歴史、医療現場で発生しやすい事故やその防止対策について学ぶことによって、医療安全確保の重要性を理解する。医療現場で起こりやすい事故とその発生のメカニズムを学ぶことによって、医療安全を確保するための基本的な考え方、現場で行うべき安全行動の実際について理解し、臨地実習や卒業後の実践場面において、安全が確保された行動を実施できるようになる。事故事例の分析などを通して、チーム活動による安全文化の醸成の重要性を学ぶ。事故発生時の組織的な対応、組織や個人が負うべき法的責任、被害者および事故当事者への支援のあり方について理解する。

・教育成果（アウトカム）

医療事故の契機となった事故とその発生要因、国や各医療機関で行われている患者安全を推進するための事故防止活動などを学ぶことによって、医療において安全確保をすることの重要性について、理解が深まる。具体的な事故事例の発生要因分析や事故防止対策の検討などグループで作業することによって、組織的に事故を防止するためのチーム活動を行う上で必要な基本的な態度が身につく。患者の安全確保のために必要な基本的な態度と看護職として期待され責務を理解し、看護の実践に当たって安全確保を考えた行動できるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：2,3,4,6,7

・到達目標（SBO）

1. リスクマネジメントの歴史と医療安全を学ぶ上で必要な用語の定義が述べられ医療安全論への関心を深める。
2. 国や医療機関のリスクマネジメントの取り組みを説明できる。
3. 組織安全文化の醸成とチームで取り組む必要性が述べられる。
4. 人間工学的な事故防止対策と手順の順守など安全行動を実施する姿勢を身につける。
5. 安全で清潔な療養環境と適切な勤務環境の確保の必要性を述べられる。
6. 事故発生時の対応と事故の被害者及び当事者への支援のあり方について述べられる。
7. 事故事例を振り返り、看護業務、看護職の倫理と責務及び法的責任について確認する。
8. インシデント（ヒヤリ・ハット）レポートの重要性と今後の医療安全確保の課題について考える態度を身につける。

・授業日程

(矢) 東 2-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/19	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	<p>医療安全推進の契機となった事故について、講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネジメントの歴史と医療安全を学ぶ上で必要な用語の定義が述べられ、医療安全の必要性について関心を深めることができる
10/3	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	<p>日本医療機能評価機構事故防止センターの役割と国や医療機関の安全確保の取り組みについて講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国及び医療機関におけるリスクマネジメントの具体的な取り組みを説明できる
10/17	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	<p>人間の特性やヒューマンエラー発生のメカニズムとその防止対策について講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エラー防止のために安全文化の醸成とチームで取り組む必要性を述べることができる
10/31	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	<p>医薬品・医療機器に関連する事故の発生状況とその防止対策について講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間工学的な事故防止対策と手順の順守など、常に安全が確保された行動をとる姿勢を身につけることができる
11/7	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	<p>転倒・転落事故等療養上の世話に関連する事故と職務感染等院内感染事故の発生状況について講義とディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全で清潔な療養環境と適切な勤務環境の確保の必要性を述べることができる

11/14	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	医療事故発生時の対応について具体的な事例を用いてGWを行う。 ・医療事故発生時の対応と事故の被害者及び当事者への支援のあり方を述べることができる
11/28	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	重大事故の発生状況とその対応に関する事例のGWを振り返る(GW)。 ・医療事故防事例の振り返りを通して、看護業務、看護職の倫理と責務及び法的責任を述べるができる
12/5	木	3	共通基盤看護学講座	嶋森 好子 教授	医療事故の発生予防から事故発生時の対応及び事故の分析・結果に基づく改善までのリスクマネジメント(Safety1)からSafety2について、講義とディスカッションを行う。 ・インシデント(ヒヤリ・ハット)レポートの重要性と今後の医療安全確保の課題について考える態度を身につけることができる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第5版	深井喜代子	メディカルフレンド社	2017
参	組織事故	ジェームス・リーズン (塩見弘 監訳)	日科技連	2001
参	Safety - 1&Safety-II-安全マネジメントの過去と未来 -	エリック・ホルナゲル (北村正晴/小松原明哲 監訳)	海文堂	2017
参	医療におけるヒューマンエラー 第2版	河野龍太郎	医学書院	2014

・成績評価方法

定期試験 80 点・グループワークの取組状況 20 点の合計 100 点にて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

各授業の到達目標を確認し、毎回の授業に対して最低 30 分以上の予習、復習を行い、知識の定着と理解の促進を図ること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

授業終了時質問を受ける。毎回リアクションペーパーを提出する。質問・疑問があれば、次の授業において説明して理解を深める。

授業内で小テストやレポート等を課した場合は、評価後適宜コメントを付し返却する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：統合分野 看護の統合と実践

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影
講義	模造紙・付箋紙・サインペン・定規等一式	15	グループワークで使用 （6-7人×15セット）